

【特集】漆器の街で、風になる。

やりたい事をつきつめたい



福井が好きだから「伝えたい・残したい」、福井の宝もの。

紐
SOCIAL PAPER KUMIBITO



No.22
2016

嶋田希望

Naozumi Shimada

24歳移住女子、ただいま塗師修行中。

「やりたい事を仕事にしたい！」そんな決意で来た。

日本有数の漆器産地として知られる鯖江市河和田で、地域に根ざし、2000年以上にわたり越前漆器を作りつづけてきた「漆琳堂」。この伝統ある塗師家に惚れこみ、2015年10月にこの地に移り住んだ東京都出身の嶋田希望さん。

「今、楽しい？」の問いに

「楽しいです。これでお金もらって良いのかな？ってくらい。小さい頃から、作ることが好きってだけで生きてきたので。だから今ちょっとでも役に立てるっていう気がして…」。



漆琳堂 専務 八代目 内田 徹

都内の工芸高校で金属工芸を学んだのち、京都の伝統工芸大学校で漆工芸を専攻。卒業後は書店でアルバイトをしながらも、ものづくりへの思いを募らせていた嶋田さん。そんなとき、東京のとあるセレクトショップで漆琳堂のカラフルな漆器たちに出会う。

「洋服とか雑貨とかを見て、いる感覚で漆器を見つけた、そういう雰囲気に漆器があるってすごい…」歴史ある伝統工芸ながら、新たな可能性を見出す漆琳堂の姿勢に共鳴するとともに、自身のものづくりへの欲求を再認識し、即電話で求人を問い合わせた。専務の内田徹さん（漆琳堂八代目）は当時を語る「お金じゃないんです、嶋田は。『やりたい事をつきつめたい』そんな思いで来たんです」。そこからはとんとん拍子。内田さんがあら



漆琳堂 専務
八代目 内田 徹

ゆるツテを辿つて空き家を探し、約一週間で嶋田さんの新しい生活が始まった。

河和田へ來たばかりの頃、嶋田さんは地元の人たちの親切さに驚いた。「ここの人は常に他人のことを気にかけている」。そこには、

産地全体で素地、塗り、加飾など、越前漆器のさまざまな工程の分業体制が確立している河和田ならではの人のつながりがある。

「今はまだまだ修行の身。教えて頂いている事を全部吸収して、漆琳堂と、この地に貢献したい」。嶋田さんが担当しているのは、漆を塗れる状態にする「下地」と呼ばれる基礎の部分。ひとつひとつ丁寧に塗り込まれた器が、やがて堅牢で美しい漆器になる。彼女のひたむきな姿勢を応援してくれ、いろいろな人の手を経て…。

嶋田さん 「専務は色々な事を聞いてくださる。商品開発など一緒に考えるのも、頼まれ仕事もどっちも楽しい」

内田専務 嶋田がうまくできないことが分かる。ちょっと自分もそうだったから、「あーわかるわかる、そうなるよねえ。ぼくも失敗したよ」って言える。



漆琳堂
代表 七代目
内田 清治





お世話になっている人、魅力的な文化、そして河和田のおいしいを



うるしの里会館
越前漆器の展示
がズラり！
歴史も学べます



ろくろ舎
丸物木地師の酒井さん。
直に相談しあえる
距離感が大事



ラボーゼかわだ
出張で来られた方
はこちらへ、自然
いっぱいの温泉宿



山うに屋
河和田の家庭の味
「山うに」たこ焼きは、あっさりで
やみつきの味



てつや
とっても優しい店主の
てつやさん。焼き鯖寿司と盛りうどんが絶品



TSUGI
同じIターン組
として元気を
もらっています



忍忍
河和田イチのイケメン
服部さん。私のイケメ
シはギョーザ！



漆器神社
毎年職人の道具の供
養や、漆器祭が行わ
れています



株式会社 漆琳堂 / 嶋田希望

〒916-1221 福井県鯖江市西袋町701

TEL.0778-65-0630

割烹漆器など業務用漆器を中心とした伝統工芸の漆器づくりをはじめ、創作デザイン漆器「aisomo cosomo」「お椀や うちだ」などの自社ブランドを展開。本社内にショールーム兼ショップを併設し、展示・販売している。

取材……宮本 隆行 Art Director …三嶋 良晴
撮影……高橋 正勝

組人についてのお問い合わせ・バックナンバーは
発行元 大一印刷株式会社

〒910-2142 福井県福井市前波町17-6-1

TEL.0776-41-3741 FAX.0776-41-2442

<http://bigone-p.com/kumibito/>

企画制作・編集

コミュニティサポート5〇プロジェクト

Find us on
[facebook](#).

